

令和2年度

自己評価報告書

令和3年3月

学校法人 さくら学園

安城生活福祉高等専修学校

I 現況

- 1 学校名 安城生活福祉高等専修学校
(技能連携 東海大学附属望星高等学校)
- 2 所在地 〒446-0037 安城市相生町5-9
- 3 電話番号 TEL 0566-76-4118 FAX 0566-74-0862 <http://sakura-g.ac.jp/>

4 沿革

- 1947(昭和22)年 開院「古井さくら和裁学院」安城市古井町桜塚
- 1957(昭和32)年 各種学校「安城さくら家政学院」認可 洋裁科設置
- 1960(昭和35)年 名称変更「安城さくら高等家政学校」安城市相生町に移転
- 1962(昭和37)年 さくら学園法人格取得
- 1976(昭和51)年 専修学校に昇格 校名を「安城女子高等専修学校」に変更
- 1990(平成2)年 東海大学附属望星高等学校と技能連携開始
- 1999(平成11)年 名称変更「安城生活福祉高等専修学校」
- 2003(平成15)年 幼児福祉専攻を新設
- 2008(平成20)年 生活科フードデザイン専攻を新設
- 2010(平成22)年 調理師科を新設
- 2011(平成23)年 製菓衛生師(パティシエ)国家試験受験資格取得コース設置
- 2014(平成26)年 さくらホール完成
- 2019(平成31)年 調理師科男子受け入れ
- 2020(令和2)年 介護科男子受け入れ

5 学科と生徒数

	1年	2年	3年	合計
ファッション・パティシエ科	94	88	67	483
保育・介護科 医療福祉科	<8	96	88	546
調理師科	74	66	56	<:
合計	4:9	44<	444	739

6 教職員数

校長	岩瀬せつ子			
校長補佐	岩瀬ゑり子			
副校長	井上 治義			
教 頭	2名			
教 員	22名 (望星1を含む)			
講 師	27名			
臨床心理士	1名			
事務職員	8名			
用 務 員	1名	合 計	64名	

7 施設概要

学科教室	16	被服実習室	4	介護実習室	3
調理実習室	2	集団調理実習室	1	視聴覚室	1
学生ホール	1	教育ホール	1	情報処理室	2
リラックスルーム	2	生徒会室	1	体育館・講堂	1
音楽室	2	礼拝堂	1	保健室	1

II 評価基本方針

1 評価の目的

- ・心豊かで自律心に富み、社会に貢献できる人材を育成する。
- ・徹底した実技指導を通して技術を習得させ、質の高い専門教育ができる学校運営を改善するために行う。

2 評価の基準

- ・制定した教育目標や計画に照らし、下の4段階で評価する。
適切・・・4、 ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、 不適切・・・1
- ・学内アンケートを行う。

3 評価の公表

学校評価の結果は、「学校ホームページ」にて公開する。

4 評価結果の活用

- ・評価委員会において、課題の洗い出しを行い次年度に向け目標を設定する。
- ・全教員共通認識のもと、役職・教務・生徒指導の分業単位で改善に取り組む。

Ⅲ 本校の教育活動と自己評価

1 学校の教育目標

本校は、「心豊かで自律心に富み、社会に貢献できる人材を育成する」という教育方針に基づいて教育を行っている。具体的な教育目標として次の2項目を掲げている。

- (1) 人として生きてゆくための人格形成の場として、本校の独自科目である「修養」の授業を通して宗教的情操を培い、自らを律し向上心をもって明るく正しく生きる道を学ぶための教育支援をする。
- (2) 本校の3つの専門学科(ファッション・パティシエ科、保育・医療福祉科、調理師科)における専門的な技術が、生涯を生きる支えや心の糧となるように、それぞれの生徒の実態に応じた学習支援をする。

2 本年度の重点目標

70年を越す本校の歴史と伝統を守りながら、時代の流れや社会のニーズに対応した改革心を持ち、社会に貢献できる人材の育成に努める。特に、教育方針の核である「誠心」に込められた、人を愛する心・思いやりの心を根底において誠意をもった教育支援をする。

Ⅳ 評価項目の達成及び取組状況

<教育理念・目標>

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色が押さえられているか	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1

・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

①課題

- ・前項 1、2 に基づき、教職員全員が共通理解の下に実践する。

②今後の改善方策

- ・本校が目指す教育方針の理解を求めため、生徒及び保護者の意識や価値観を想像しながらできるだけ丁寧に周知していく。

③特記事項

- ・学校の教育方針や学習内容・特色などは、入学前の説明会において関係資料を掲載した「入学のしおり」を配付し、保護者・生徒に周知している。
- ・人格形成の場として、毎朝 10 分間「修養放送」を実施し役職者の講話を聴き、自分の意見や感想を書きまとめる学習活動を取り入れている。

<学校運営>

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4	3	2	1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

①課題

- ・職員室の I T 関連機器が校内 LAN を含めて、システム化が十分になされていない。

②今後の改善方策

- ・校内 LAN を早急に整備することにとりかかる。
- ・学校だより等による情報発信の体制を強化する。

③特記事項

- ・情報の共有化と守秘義務の遵守体制を構築する。

<教育活動>

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1

・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①課題

- ・ 職員の能力開発のための研修機会・研修時間の確保

②今後の改善方策

- ・ 教職員自らの専門分野等の技術向上を図る。
- ・ 外部関係者からの評価をより多く取り入れる。

③特記事項

- ・ 本校は技能連携校として、高等学校卒業資格が与えられる。
- ・ 各学科の特色を持ったカリキュラムを組んでいる。
- ・ 課題研究の時間においても、資格取得や検定試験に向けての取り組みを行っている。
- ・ 地域イベントでのファッションショー、スイーツ販売、ボランティア活動を行い日頃の学習内容の実践の場とし、生徒一人一人の自己有用感を高めている。

<生徒指導等>

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 基本的生活習慣の確立のため取組が行われているか	4	3	2	1
・ 生徒の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある生徒等への支援）が行われているか	4	3	2	1
・ 生徒・保護者からの相談体制が整備されているか	4	3	2	1
・ 進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか	4	3	2	1

①課題

- ・ SNSの不適切な使用及び、生活習慣の乱れや人間関係の早期発見と解消。
- ・ 発達障がいのある生徒への支援、不登校生徒への支援を強化する。
- ・ 保護者との連携をより強化する。

②今後の改善方策

- ・スマートフォンの機能の使い方指導や防犯講話を実施し、注意を促していく。
- ・発達障がい、不登校生徒の対応方法の正しい知識を身につけさせる。
- ・家庭との連絡を一層密に行い、必要に応じて家庭訪問を行う。

③特記事項

- ・いじめ防止を徹底するため、学期ごとにアンケートを実施し対応している。
- ・スマートフォンのトラブル防止のため外部講師を招き、防犯講話を実施している。
- ・保護者との連絡も密にしており、家庭と学校とが情報を共有し相談活動を充実させることで、生徒の健全な育成に努めている。
- ・スマートフォンの持参については、登下校時の安全確保の為、申請した生徒について特別許可をしている。

<特別活動等>

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・ 保護者会等と連携した活動を推進しているか	4	3	2	1

①課題

- ・活動場所の不足（特に運動部）・指導教員の不足

②今後の改善方策

- ・外部講師の活用

③特記事項

- ・安城七夕まつりの各種イベントへ生徒が関わったり、ボランティア活動へ積極的に参加して地域行事への参画意識を育成している。
- ・体育大会、学園祭への参観を案内し、生徒の活動の様子を発信している。

<学修成果>

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進学率や就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1

・ 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・ 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

①課題

- ・ より多くの求人数を確保し、安定した就職指導（企業斡旋）ができるようにする。
- ・ 就職に有利となる資格取得を奨励し、一般常識の習得を支援する。
- ・ 長期欠席者や学習意欲欠如による退学者を防ぐ。
- ・ 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握した上での、卒業後のフォローアップ体制を構築する。

②今後の改善方策

- ・ 卒業生の動向を企業訪問の際、しっかりと把握する。退職している場合は、本人の希望により、関わりを継続しフォローアップする体制を整える。
- ・ 退学者理由は、学習意欲の欠如、経済的な理由、家庭の事情、不登校など多様である。生徒を多面的に理解し、些細な変化も見逃さず、家庭との連絡を一層密にしながら担任と学校全体とで組織的対応をしていく。

③特記事項

- ・ 進路指導は、生徒に対して姉妹校進学説明会、卒業生による講話、模擬面接、採用試験対策を実施している。また、総合学習及びキャリアデザインの時間において、きめ細かな進学・就職指導体制ができている。それにより、学校推薦による就職希望者は、ほぼ全員が採用内定を得られた。
- ・ 進路結果は、年度ごとにまとめ、全職員に周知している。

<生徒支援>

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 生徒の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・ 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1

・ 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・ 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課題

- ・ 保護者の離婚や退職等によって経済的に就学が困難になった場合、可能な限りの支援策について教員全員が情報共有する。
- ・ 全学年男女共学の学校として、改めて校内の施設環境を含めた生徒支援体制の見直しを推進する。
- ・ より多くの生徒を部活動参加させることにより、生徒間の連帯感や責任感を養成し友情を深める好ましい人間関係の形成と社会性の育成をする。
- ・ 卒業生進路のデータベース化をする。

②今後の改善方策

- ・ 行政(市町村社会福祉課等)との連携を深め生徒の生活環境の改善を計る。
- ・ 男女共学校として学習環境・生活環境が適切であるかを常に意識し、環境面のきめ細かな見直しを進める。

<教育環境>

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

①課題

- ・ インターンシップ等において受け入れ側の事情を考慮した上で、生徒の安全面などを検討する。
- ・ 法人内において、幼稚園 保育園 デーサービス グループホーム等の実習先があるが、さらに踏み込んだ実習内容の整備をする。
- ・ 避難訓練の際、状況設定および状況を踏まえた行動目標（課題）を毎回設定し、訓練を実施する。
- ・ 大規模災害への対策（水・食料）について丁寧な見直しを実施した。今後も見直しを継続していく必要がある。

- ・第1情報処理室のコンピュータ40台を最新のものに更新した。

②今後の改善方策

- ・男女共学を念頭に、適切な教育環境整備に心掛ける。
- ・消防署と連携した災害訓練を計画し実行する。

<生徒の受入れ募集>

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・生徒募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・生徒募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題

- ・生徒数減少傾向への対応策を早急に検討する。

②今後の改善方策

- ・男子生徒の受け入れを拡大に備える。
- ・本校独自の魅力をPRする。

③特記事項

- ・施設設備の近代化を図り、魅力的な教育環境の整備に尽力する。
- ・優秀な教師による、質の高い教育の提供を目指す。

< 財 務 >

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

- ・女子生徒だけでなく、男子生徒の更なる受け入れ整備に努める。

- ・学科選択コース新設に対応した環境整備に努める。

②今後の改善方策

- ・備品、消耗品の無駄を排除するよう努める

③特記事項

- ・公認会計士による会計監査、規程に基づいた内部監査を行い、適正に実施されている。
- ・財務情報の報告はホームページで公開している。

<コンプライアンス等>

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

①課題

- ・生徒間の SNS の利用により、学校が把握しきれないところで、個人情報(顔写真等)がネット上に流れてしまう事例等を防止する。

②今後の改善方策

- ・SNS 利用等、情報リテラシーの向上及び情報モラルについて、定期的に外部講師を招聘して職員・生徒双方を対象に学習会を今後も継続していく。
- ・学校評価の結果と対策・対応について教職員で情報共有し、自己評価によって明らかとなった改善を必要とする事項に、できることから取り組む。
- ・教員一人ひとりの自己評価シート項目の見直しと、適切な実施を進める。

③特記事項

- ・週 1 時間の「修養の時間」で、生徒が社会に出た場合の法令遵守の態度についての講話を位置づけている。また、毎朝の修養放送で、情報モラルを含めた心を耕す取り組みを継続している。
- ・感染症予防の国及び県の施策を遵守し、生徒並びに職員の体調管理・健康保持を完遂できた。

<社会貢献・地域貢献>

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
・ 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1

①課題

- ・ 教育資源を活かした地域貢献の推進をする。

②今後の改善方策

- ・ 本校教育資源に対する地域社会の要望を集約する機会を生み出していく。
- ・ 産学連携による地域産業との関わりを大切にし、それによる生徒の資質向上に引き続き努める。

③特記事項

- ・ 地域が企画運営する行事等に、生徒ボランティアが積極的に関わり貢献している。
- ・ 地域貢献のための方途を模索し続ける姿勢を大切にしている。

V 総合的な評価結果

各取り組み状況については「適切」「ほぼ適切」と評価できる。

さくら学園の教育活動の核である「誠心」を全職員・全生徒で常に意識し、一人一人の生徒に寄り添った、きめ細か^{まごころ}でていねいな指導が、本校の校風として定着している。今後も「面倒見のよい学校」という本校の教育土壌を大切に^{まごころ}した専門教育に取り組んでいく。

義務教育課程での自信喪失や不登校等の悩みを抱えた生徒に、全職員が誠実に対応し、生徒自身が自分を再発見し学び直しできる教育環境を整え、時代のニーズに応える専門教育を継続できている。

職員が学校の存在意義を明確に意識し、社会および生徒のニーズを踏まえた授業づくりをこれまでと同様に着実に継続し推進する。

本年度はコロナ感染症の拡大という社会状況にあったが、毎日の検温・手洗い励行の呼びかけ、密接・密集・密閉を避ける教育活動を徹底でき、生徒及び職員の感染者0を達成できた。また、インフルエンザ等の感染者も全く無い状況を維持できた。